

自公と連立に「余地」

ラジオ番組で維新・馬場代表

日本維新の会の馬場伸幸代表は6日放送のラジオ番組で、自民、公明両党の連立政権に参加する可能性を問われ、選挙を経て連立政権を維持できない場合、「交渉のやり方やいろんな余地が出てくる」と述べ、衆院選で自公が過半数割れした場合は排除しない考えを示しました。

馬場氏は、自身が日本共産党について「日

本からなくなったらい」と発言したことについて問われ、改めて発言の撤回を否定しました。さらに、公安調査庁の70年にわたる不当な「調査」にもかかわらず、「破壊活動の証拠」なるものも一つも見つけられていない事実を棚上げし、調査対象になっていることを挙げ、「政党の中で共産党だけが唯一違う部分だ」などと破綻したデマを繰り返しました。

た。

馬場氏は「身を切る改革」として、国会議員定数の5割削減を主張しました。現在、国会議員の定数衆参合わせて713人であることを挙げ、「実際に国政を動かしているのは50人くらいだ。半分くらいで大丈夫だ」と発言しました。

議員定数を5割削減すれば350人以上も議員が減ることになります。馬場氏の主張は、国会で政府や行政の活動を監視する野党の憲法上の責任を放棄する暴言で、国民が政治に参加する権利や多様な民意を切り捨てるものであり、実際は「国民を切る改革」です。